

## 理事長所感（5月）

「夏が来れば思い出す---水芭蕉の花---♪」の歌ではないが、5月になると「6日の菖蒲（あやめ）10日の菊」という言葉を思い出します。

この言葉、広辞苑によると「時機におくれて役に立たないことのたとえ」と解説されていますが、これだけでは分かりづらい。

古来、陰陽道では、奇数を陽数、偶数を陰数と呼び、陽数を尊ぶ風習がありました。

現在でも、懐石料理では一皿に盛る料理の数は3種盛り、5種盛りと奇数（陽数）とするといった形で残っています。

短歌も、5・7・5・7・7の陽数が5つ（陽数）連なって計31音（陽数）、俳句も5・7・5と陽数が3つ（陽数）連なって17音（陽数）となっています。

特に、陽数が重なるのは目出度いとしてお祝いをする風習があり、これも現在に残っています。

いわゆる「重陽の節句」で、1月1日の正月、3月3日のひな祭り、5月5日の子供の日、7月7日の七夕、9月9日の菊の節句といった具合です。

このうち、5月5日は、菖蒲祭とも呼ばれ、菖蒲が尚武（武を尚ぶ）に通ずることから、男の子の節句として、鯉幟を掲げたり、武者人形を飾ったりするほか、菖蒲を湯船に浮かべたしょうぶ湯に入ったり、邪気を払うため菖蒲を軒端に投げ入れたり、菖蒲の葉で巻いた粽を食べたりします。

この菖蒲、5日であるからこそ意味があるのであって、6日になると時期遅れで意味がないということになります。

同様に、10日の菊も、9月9日であってこそ意味があるのであって、10日になると時期遅れで意味がないということになりますので、冒頭の広辞苑の解説となる訳です。

スイーツに直せば、さしずめ「25日のクリスマスケーキ、14日のバレンタインチョコレート」ということになるでしょうか。いずれにしても、物事にはタイミングが大切ということです。

昔からわが国の危機管理については“too little too late（少な過ぎ、遅過ぎ）”という批判があります。

わが国の政治、行政の意思決定方式がボトムアップ式であるため、新しい事態に対して大胆な決定ができず、とりあえず小出しにやってみて、その状況を見ながら修正、調整していくスタイルであるためと思われれます。

昨今の新型コロナウイルス感染症の対応全般、マスクの配布、専門家会議へ相談してからの決定、自粛要請、休業協力金、支援金の交付などが、後になって“too little too late”で『6日の菖蒲、10日の菊』だったなあ。」と言われることがないように祈るところです。

理事長 平谷 英明